

週刊センターニュース No.55



第55号(2005年4月4日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第69回 日時: 4月6日(水) 14:00~15:30
会場: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室
講演者: 新開英二(エイデル研究所取締役、出版部長)
題目: 「大学関連書籍の出版事情について」

第70回 日時: 4月14日(木) 14:20~15:50
会場: 角間キャンパス総合教育棟2階 大会議室
講演者: 澤井秀和(中日新聞北陸本社 編集局報道部)
題目: 「市民は金沢大学に何を望んでいるか、金沢大学の何を知らたがっているのか
- 記者の眼から見た金沢大学 - 」

研究会「教養教育の最前線 文系コア・カリキュラムをつくる」参加報告

1月28日、名古屋大学文学部主催の表記研究会に参加した。その内容については第62回共同学習会ですでに報告したが、概要を改めて紹介する。九州大学、名古屋大学を中心に9大学の間で、平成9年より文学部のコア・カリキュラムとして何を設定すべきかについて議論が積み重ねられてきた。本学文学部もそのメンバーである。今回の研究会での報告者のお一人、九州大学名誉教授の池田紘一先生によると、議論は尽くされ様々なアイデアが提出されたとのことであった。その成果の一部は、「文字を読む」、「ファンタジーの世界」という2つの教科書として結実している。

池田先生は、「カリキュラムとは、その時代その時代で何を強制すべきかを示したものであり、責任を持たねばならない」と主張されたが、同時に時代によらないコアとして哲学と古典の必要性をあげられた。60年代までは哲学を中心とした漢文教育、外国語、古典がコアを形成していたが、次第に失われていった。サリン事件やイラク問題など現代の問題と哲学、古典とのぶつかり合いによって、それらの現代での意味が見えてくると述べられた。

九州大学では、上記の教科書を用いて複数教員のリレー方式で授業が行われたが、教科書で意図された各項目の連続性を学生に伝える上で、反省すべき点があったとのことである。総合科目一般に言えることだが、担当教員の間で十分なコンセンサスを形成しておくことが重要であり、準備なき学際は意味をなさないと反省を述べられた。

文学部のコア・カリキュラムとして哲学、古典を池田先生はあげられたが、アメリカの主要大学の教養コア・カリキュラムとして人文学は重要視されている。本研究会において、名古屋大学文学研究科の天野政千代先生は、ボストン大学、ハーバード大学、コロンビア大学、スタンフォード大学の教養カリキュラムの調査結果を報告された。例えば、コロンビア大学のコア・カリキュラムは、Literature Humanities, Contemporary Civilization, Art Humanities, Foreign Language, University Writing, Major Cultures, Physical Education(体育), Science、以上8コースからなり、

人文学が大部分を占めている。授業は、講義形式ではなく、一般に輪読と議論から構成される。スタンフォード大学においても理工系の学生に人文学を学ばせることが極めて重要であると考えられている。教員も学生も一般に教養教育に無関心であるが、名誉教授や大学院生、Ph.Dを持つ任期付の講師なども担当させることによって教育効果をあげている。一方で、教員へのインセンティブとして、研究費、特別手当、有給休業期間などを与えている。大学として教養教育の財政的基盤を充実させている。

研究会では、現代的視点に立った新たなコア授業の提案も行われた。名古屋大学文学研究科の佐々木重洋先生は、国内の外国人労働者を取り上げ、背景の調査、外国人支援NPOや地方自治体との連携、外国人労働者との交流などを含んだ授業計画を提案された。身近に目を向けた多文化との共生をフィールドワーク主体で身をもって体験させようとする取り組みである。また、名古屋大学国際言語文化研究科の松本伊瑛子先生は、全学基礎科目として開講した「女と男を科学する」について授業報告をされた。ジェンダー論の必要性を述べられた。

最近、コア・カリキュラムという言葉をよく耳にするが、文系の分野で真剣な議論が行われていることを知ることができ、大変勉強になった。理系の基礎科目など、大学教育改革の一つの重要な対象としてカリキュラムについての議論が現在活発になっている。カリキュラム設定の責任の重さを述べられた池田先生の主張が耳に残った。(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

センターからのお知らせ

- ・センターニュースへの投稿、歓迎します。
- ・共同学習会での報告、歓迎します。
- ・4月からのランチョンセミナーの企画提案、ご発表、歓迎します。
ご連絡ください。
- ・当センターでは、センター教員の研究成果を広く世に問い、また大学教育の改革をテーマとして多くの高等教育研究者と活発な議論を展開していくために、以下の書物を刊行しました。全国30名の高等教育研究者の執筆により、大学教育の現状をさまざまな角度から分析した書物となっております。書店等でご覧いただければ幸いです。
『国立大学法人化の衝撃と私大の挑戦』
監修：清成忠男（法政大学総長）
編集：早田幸政（金沢大学大学教育開発・支援センター副センター長）
企画：金沢大学大学教育開発・支援センター
発行所：エイデル研究所、発行日：2005年2月14日

センター教員活動記録

- 2005.3.22,23 第11回大学教育研究フォーラムに参加 主催：京都大学高等教育研究開発推進センター 会場：京都大学（公費出張 西山）
- 2005.3.24 第3回北陸地区国立3大学教養教育研究会において発表
「双方向遠隔授業システムの特性を活かした授業企画」(青野)
「双方向遠隔授業システムによる演示実験映像の配信」(西山)
- 2005.3.26,27 大学評価学会第2回全国大会に参加 会場：駒澤大学駒沢キャンパス（公費出張 西山）